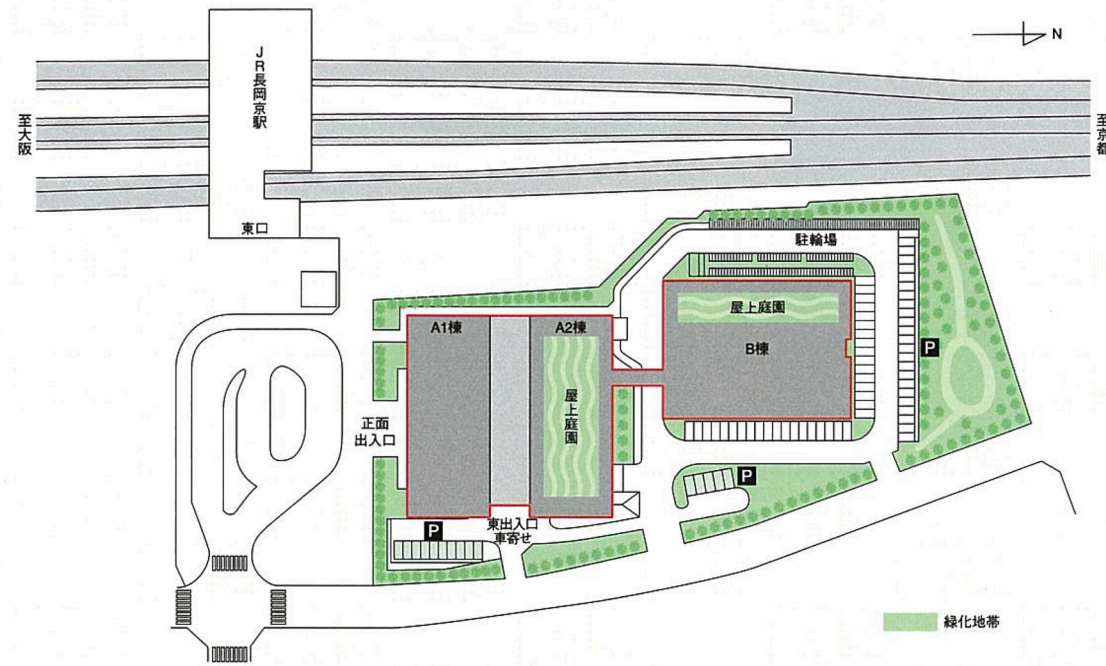


見取り図



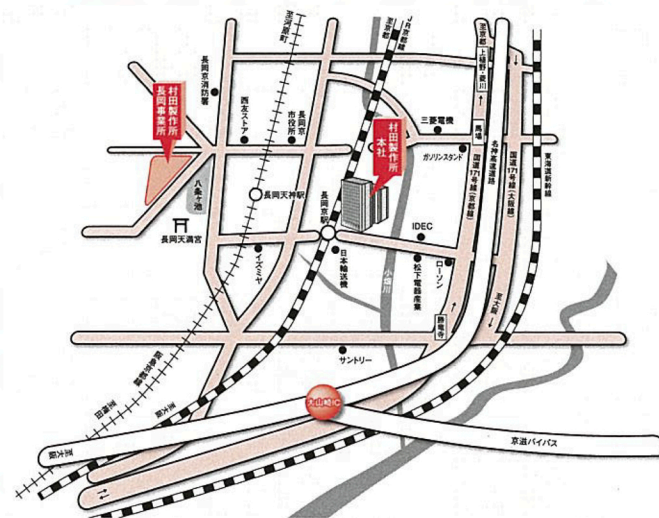
施設概要

建物名称	株式会社 村田製作所 本社
所在地	京都府長岡京市東神足1丁目10番1号
敷地面積	12,348m ²
面積	A棟 建築面積 3,217m ² 延床面積 43,410m ² B棟 建築面積 1,746m ² 延床面積 8,064m ²
階数	A1棟 地下1階 地上18階 A2棟 地下2階 地上16階 B棟 地下2階 地上4階 (一部5階)
高さ	83m (A1棟) 72m (A2棟) 25m (B棟)
構造	鉄骨造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
駐車数	99台
竣工	2004年9月 (A棟) 2007年10月 (B棟)

設備概要

発電機	ディーゼル発電機 (防災用) 500KVA ディーゼル発電機 (災害対策本部用) 50KVA
空調熱源	ガス焚吸収式冷温水発生機×3台 ターボ冷凍機 (氷蓄熱用) ×1台 氷蓄熱ユニット×1台 空冷ヒートポンプチャラー×3台
空調方式	床吹出し空調方式 (事務フロア)
給水	上水・中水の2系統給水
照明	照度・人感センサーによる調光制御
監視制御	BACnet (オープンネットワークシステム)
エレベータ	A棟 乗 用: 24人乗り×8台、非常用17人乗り×1台 人荷用: 非常用26人乗り×1台 B棟 乗 用: 30人乗り×1台 人荷用: 23人乗り×1台
エスカレータ	2台

ご案内



交通機関

JR京都線 / 長岡京駅下車、徒歩約1分
阪急京都線 / 長岡天神駅下車、徒歩約12分

所在地

〒617-8555
京都府長岡京市東神足1丁目10番1号
TEL. 075-951-9111 (代表)



本社施設のご案内

Innovator in Electronics

muRata

村田製作所

戦略的事業経営に向かって

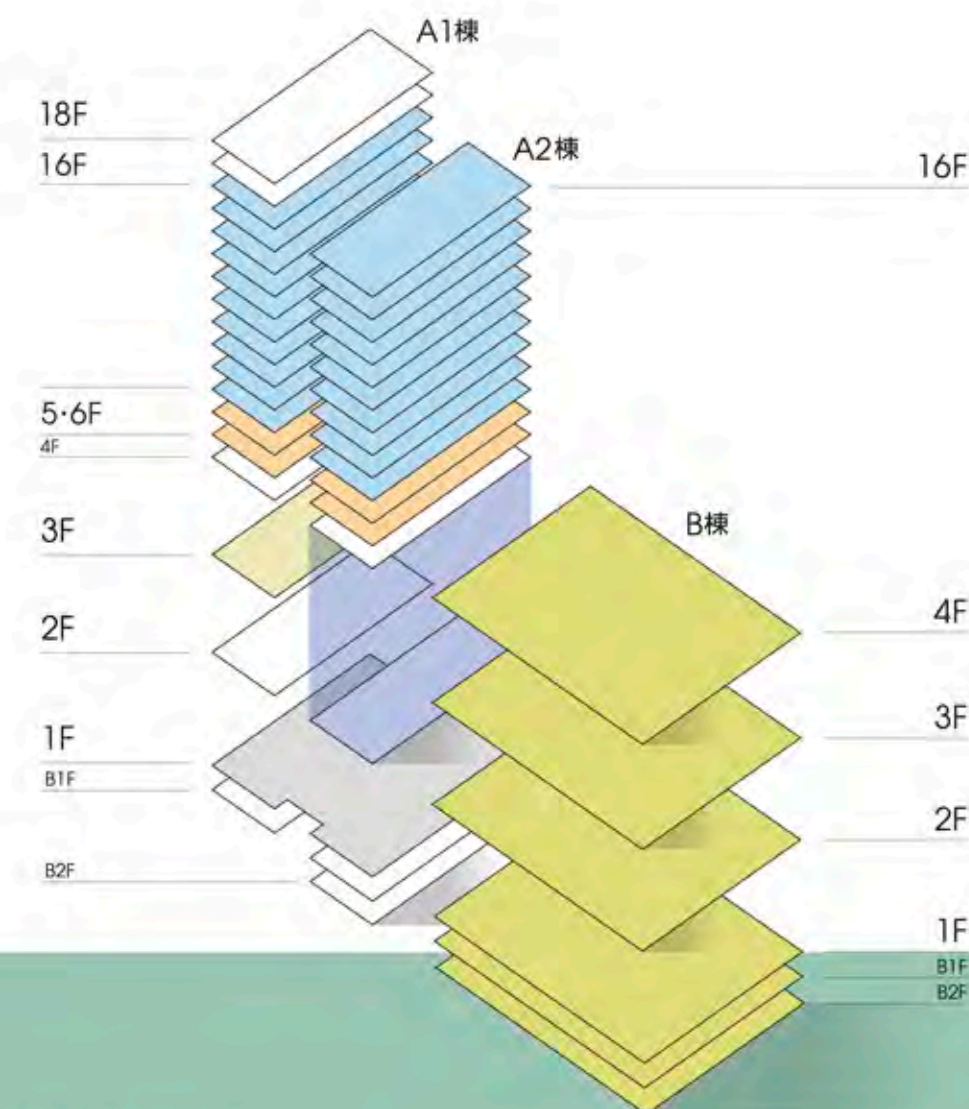
本社の位置づけ

当社は、1944年、京都の四条大宮北蛸薬師の地で創業後、1956年、長岡事業所(旧本社)所在地に「株式会社村田技術研究所」を設け、研究開発と、主として原料、セラミック工程のほか円板型セラミックコンデンサ、圧電製品の生産を手がけました。1961年には、本社を山科の日ノ岡から当地に移転し、村田技術研究所を吸収、合併。その後、事業規模の拡大とともに建物が手狭になったことから、生産を八日市事業所及び関係会社に、さらに研究開発機能と本社機能の一部を野洲事業所に移していました。しかしながら将来を見据え、迅速な経営判断のためには、本社機能とともに事業部の企画機能や研究開発等の中枢機能を再度結集させ、情報の集約・共有化を行い、さらに積極的な対外営業活動を推進する必要性が不可欠と判断し、中期計画として先の現本社棟建設に始まる事業所マスタープランを立ち上げ、新研究開発棟の完成によって、計画の完遂を見ることがになりました。

本社のコンセプトとして、次の3点を考えています。

- 1.本社機能スタッフ、他の国内拠点に分散している事業部の機能スタッフ等の中枢機能を集結することで、情報の集約・共有化を行い、迅速な経営判断を推進させる。
- 2.JR長岡京駅に隣接することにより、利便性を向上させ、得意先や外部機関へのアクセス、関係部門との強化をはかる。
- 3.研究開発専門のB棟(研究開発棟)を、野洲事業所、横浜事業所に並ぶ第3の本格的な研究開発拠点とする。

現本社屋の竣工は、当社創業60周年の節目となりました。エレクトロニクス業界は、大変厳しい経営環境下にあります。創業の精神に立ち返り、戦略的な事業経営を行っていきたくと考えています。



研究開発棟(B棟)の位置づけ

本社ビル北側に隣接する研究開発棟(B棟)は、国内の通信モジュール関連部門を集約したほか、電波暗室や試作工程、実験室等の先端施設を盛り込み、さらなる技術対応力の強化をめざします。意思決定部門や関係部門と連携を強化し、JR長岡京駅前という交通至便の立地を生かして、お客さまに今まで以上のサポート向上を図ります。

立地

本社ビルは、JR長岡京駅東口に面した京都府長岡京市東神足再開発地区計画区域(A地区)内に立地しており、先端産業の振興拠点として土地の高度利用化を促進した京都府下で初の再開発地区計画の案件として建設しております。

このため、敷地東側幹線道路の拡幅の必要があり、448m²の土地を提供いたしました。その結果、容積率が200%から400%に緩和されています。さらに、壁面後退4mを行い、近隣や歩行者に対して開放感のある緑地を設けています。

建物概要

アトリウムを介して5階以上を渡り廊下で連結するツイン高層棟(A1棟・A2棟)と、低層棟(B棟)の構成になっています。A棟の低層階は来客対応ゾーンや500席のホール、中層階は食堂などの厚生ゾーン、上層階は事務フロアを配置。B棟は研究開発棟になります。外観は、東西面に、京都の伝統工芸を意識した天然素材である大型陶板タイルを使用しています。また、エレベータシャフトや機械室などで構成するコア部分を配置し、日射による熱負荷の多い東西方面の大部分を壁にすることで、冷房負荷を抑制しています。屋上緑化や敷地内緑化、透水性舗装、雨水汚水再利用設備やエアフローウィンドウの採用など、環境に配慮した施設をめざしています。(詳しくはP10、P11の環境・設備の項目をご覧ください。)

本社施設のご案内

Contents

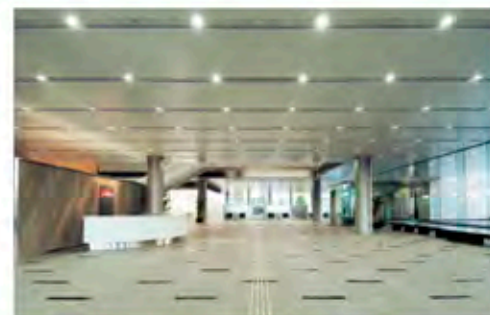
本社の位置づけ・立地・建物概要	2
研究開発棟(B棟)の位置づけ	3
エントランス	4
ホール、会議室	5
厚生ゾーン	6
オフィスゾーン	7
本社研究開発棟(B棟)	8
環境	10
設備	11

エントランス

床は石畳をモチーフとした御影石のパターン貼りとし、壁は外装で使った大型陶板タイルとサッシュレスのガラススクリーンで構成するなど、外観との連続性を意識した見通しの良い明るく開放的なロビー空間としています。石畳の上に柔らかに浮かび上がるイメージの受付カウンターを配し、お客様を温かく迎え入れます。



エントランスロビー



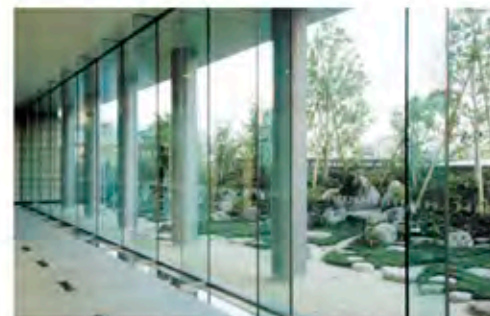
エントランス

中央に吹き抜けを設け、2階の応接ゾーンとのつながりを持たせるとともに、エントランスホールに自然光を導くことで、開放感を持たせています。



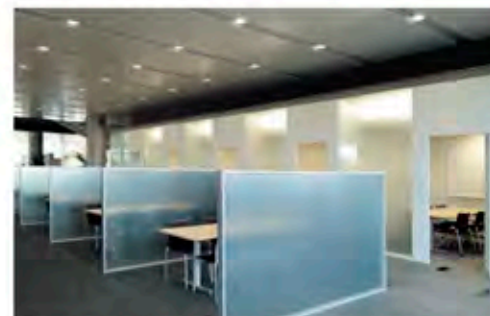
PRコーナー

当社の歴史や概要、主要製品を展示しています。また、当社に関連する書籍も展示し、手にとってご覧いただけるようにしています。



枯山水の昇り庭

商談コーナーからは、枯山水の昇り庭が望めます。7コマの柱間を7枚の屏風絵に見立て、豊かな自然の風景を、石組と白砂、植栽による構成で表現しています。



商談ゾーン

オープンな空間にローバーテーションで区画した商談コーナーと機密性を考慮した個室対応の商談室で構成しています。

ホール

各種会議・講演を主用途とした3層吹き抜け(天井高さ約9m)のホールは、専用機器も装備し、コンサート等にも対応可能な優れた音響性能を確保しています。両サイドの壁は音の拡散効果を高める木リブのパターンで構成し、竹林をイメージしたデザインとなっています。



ホワイエ

会議・イベントの待合スペースを兼ねるホワイエは、木や土壁(珪藻土)等の自然素材を仕上げ材に使用した3層吹き抜けの落ち着いた空間としています。雪見障子風のガラススクリーンの下から坪庭の緑が覗めます。



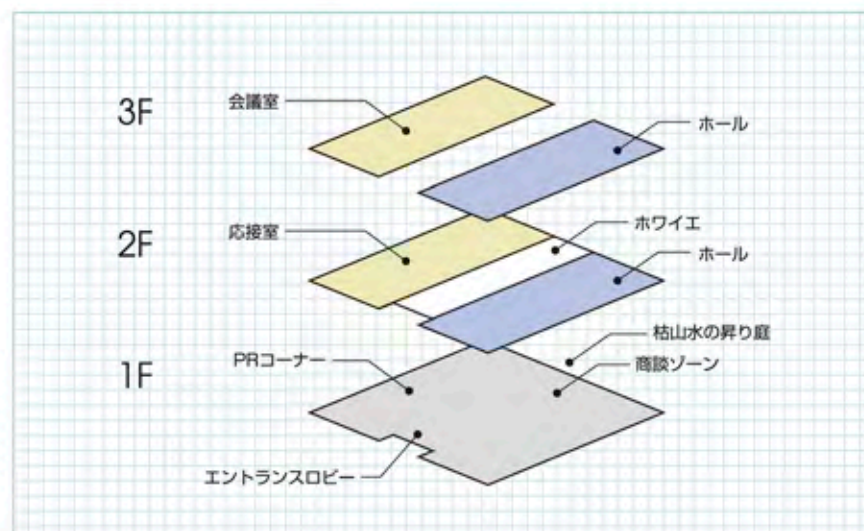
多目的用途

200インチ高精細スクリーン2面と投影式高精度プロジェクターにより多目的なプレゼンテーションを可能にしています。通常の音響システムに加え、ステージ横には当社開発品の球形スピーカシステムを設置し、繊細かつクリアなサウンドと壮大なステージ感が味わえます。また、ステージと前方の一部の椅子を可動式にしており、用途に応じてステージを拡大・縮小することができます。



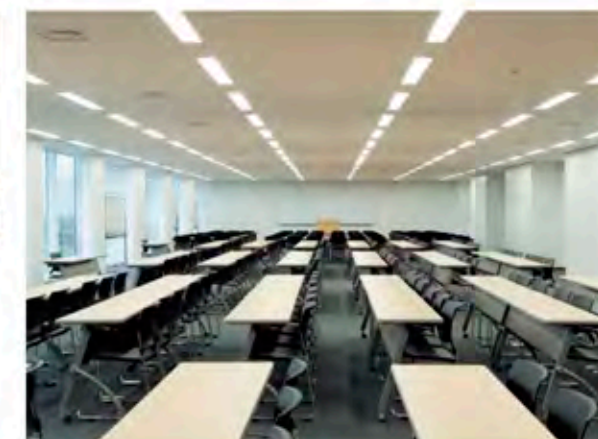
椅子には、肘掛け部に収納可能なメモ台を付加し、会議等での機能性にも配慮しています。

A1・A2棟 | 1-3F



会議室

スライディングウォールを開閉することで、最大220人までの会議や研修に対応できます。また、外部インターネット用無線LANも設置して多目的に使い勝手の良い会議室となっています。



厚生ゾーン

A1-A2棟中央の吹き抜け部分に、5階、6階を結ぶ階段を設置し、ツイン棟を一体感のあるデザインとしています。5階に設けた食堂は、12層吹き抜けのアトリウムのベースに位置し、トップライトやアトリウムから最大限の自然採光を考えた明るい空間となっています。6階には、喫茶室や医務室・図書室等を配置し、福利厚生も充実させています。



12層吹き抜けのアトリウム(5階より16階トップライトを見上げる)



社員用食堂

社員用食堂は600人の収容能力があります。カフェテリア方式を採用し、安くて早く、おいしい食事を提供しています。



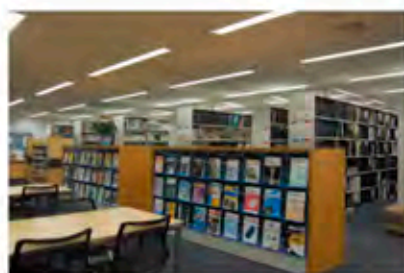
オートレジ方式

食堂の精算は、非接触ICカードによる食堂キャッシュレスシステムを導入。食器にICタグを付したオートレジ方式を採用して、精算時の混雑や待ち時間を緩和しています。



喫茶コーナー

6階のアトリウムに面するゾーンに喫茶コーナーを設け、憩いの場としています。他の場所と同じく、すべて禁煙としています。



図書室

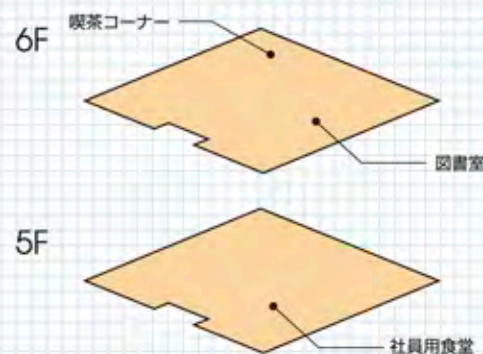
エレクトロニクス関連の専門書から話題のビジネス書など幅広いジャンルの書籍を取り揃えています。



厨房の熱源

食堂厨房の熱源は、オール電化としています。なお、ガス使用機器は地下1階機械室に集約し、地上階ではガスを使用していません。

A1・A2棟 5-6F



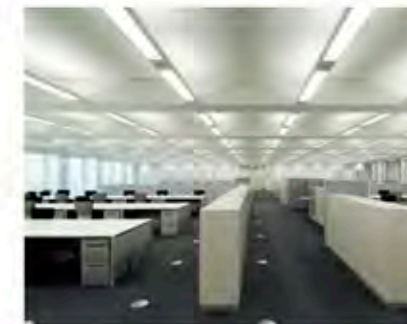
オフィスゾーン

ガラスの天井を擁した32.4m×12.0mの12層吹き抜けのアトリウムを介して、オフィス2棟を並置させています。これにより、トップライトから各フロアに安定した自然採光が得られるだけでなく、同一フロアの見通しや眺望にも優れ、ストレスを感じさせない明るいオフィス空間が実現しました。また、オフィフロアは、無柱・無壁の空間(32.4m×21.6m:約700m²)となっており、情報交換・意思疎通の迅速性を視覚的にも象徴しています。



アトリウム

オフィフロアではアトリウムから自然採光を取り入れることで、照明エネルギーを低減しています。また、各階東西両面に設置したA1-A2棟をつなぐ渡り廊下は、情報交換・意思疎通の迅速化を図るとともに、火災等に備えた安全対策も兼ねています。これにより、高層建物でありながら、ヘリコプターのホバリングスペースの設置が不要となっています。



オフィフロア

3.6m×3.6mモジュールで設計しており、将来の間仕切り変更等にも容易に対応できます。天井は高さ3.1mを確保し、開放感のあるオフィスとしています。

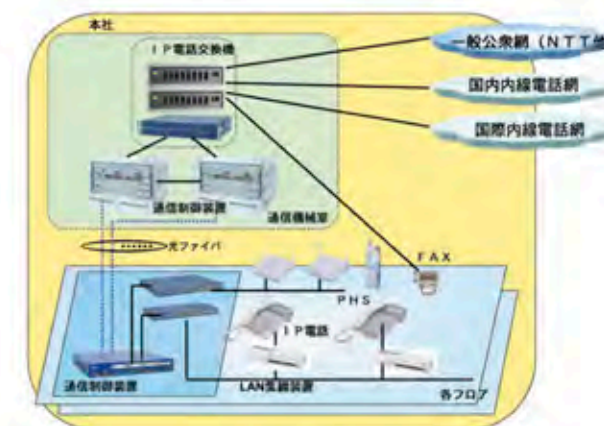
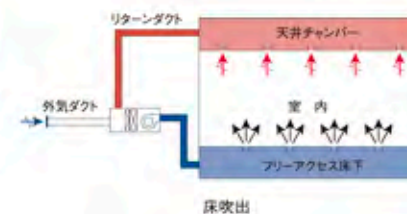
また、安全衛生、省エネ配慮として、次のような対応をしています。

●照明器具

上下配光型照明器具を採用し、天井面全体を明るくしています。照明器具は、高効率の照明器具(HiP蛍光灯)を採用し、また、照度センサーおよび人感センサーによる自動照明制御を行っています。

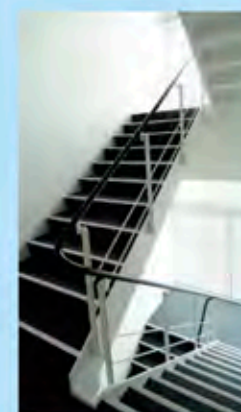
●床吹出し空調方式

エリア毎、吹出し口毎の個別制御に優れるOAフロアを利用した床吹出し空調方式を採用しています。人感センサーにより、不在時には自動停止制御を行っています。



IP電話システム

光ファイバー、IP電話機、PHS端末を導入し、情報の受発信機能を強化しています。これらの活用により、お客様へのサービス向上をはかるとともに、レイアウト変更にも柔軟に対応できるなど、電話の移設増設工数を削減することもできています。



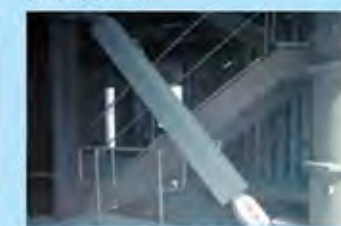
避難階段

建物を2棟構造とし、各階に渡り廊下を設置することにより、4方向避難を実現しました。また、避難階段には自然採光を取り入れ、万一の場合にも、できるだけ避難しやすいようにしています。さらに、避難階段に押出排煙方式を採用し、火災の場合も階段室に煙が侵入しないシステムに。これらの安全対策を施すことにより、屋上の非常用ホバリングスペースは不要となりました。

鋼材ダンパー



アンボンドブレース



鋼材ダンパーおよびアンボンドブレース

建物は、鋼材ダンパーおよびアンボンドブレースを鉄骨梁の各所に設け、地震時には、建物にかかるエネルギーを吸収するようにするなど、阪神淡路大震災規模の地震に対しても、充分耐えうる耐震・免震構造を取り入れています。また、万一地震の影響を受けても、軽微な補修で機能回復できる構造にもなっています。

研究開発棟(B棟)

本社A棟の北側に、地上4階(一部5階)、地下2階で設けられた研究開発棟(B棟)は、研究開発のための専用施設として、最新鋭の設備機能を集約し、当社の技術革新の先鋒を担います。新しい施設ならではの環境や省資源、周辺住環境への配慮という面でも、最新の技術を駆使した設計がなされています。



クリーンルーム／1F

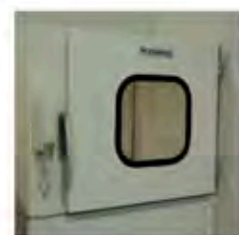
空気中のチリやホコリが定められた制限値以下に制御された空間[※]で、通信モジュールの試作を行います。

※クラス5,000程度＝
約28.3リットルの中に0.5μmのホコリが
5,000個以内



エアーシャワー

クリーンルームに入室する際、エアーシャワーを通過してチリやホコリを除去します。



パスボックス

クリーンルーム内外で物品を受け渡す際に人の出入りを極力避けるために使用します。



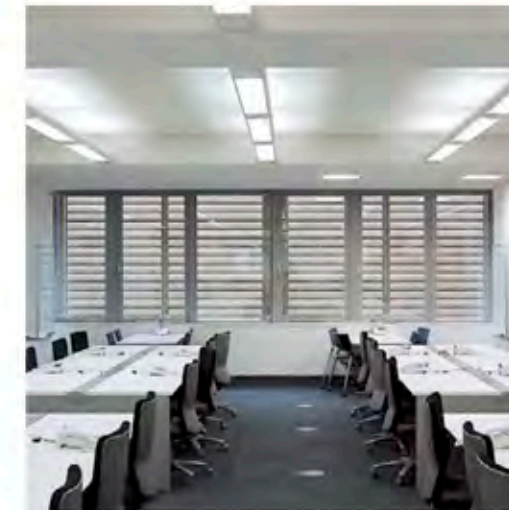
電波暗室／B2F

電子機器から生じる電磁波を測定します。内壁をフェライトなど電磁波吸収体で覆うことで内部での電磁波の反射がなく、電磁波を発射するものからの直接波のみを測定することができます。



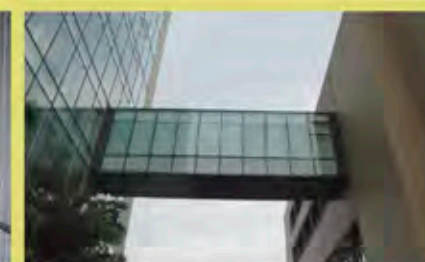
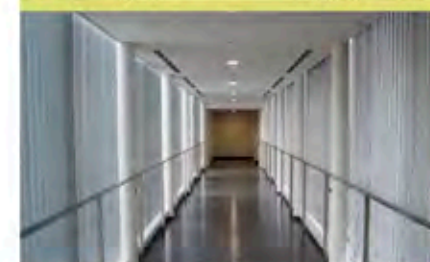
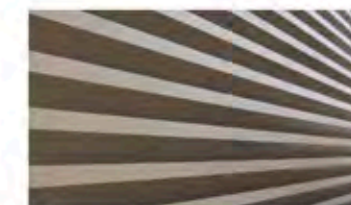
スタッフ室／3F

らせん階段を配した吹き抜け空間の下、開放的な環境を提供します。

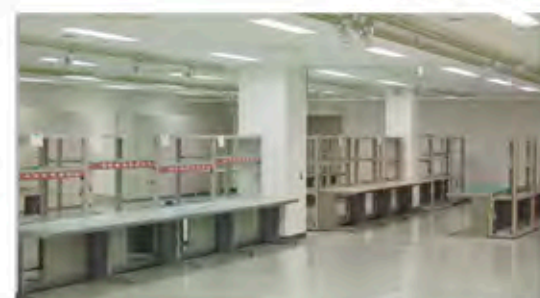


ルーバー

棟北側の窓にルーバーを設置しています。近隣の皆様への配慮のため、建物外部への光漏れや視線を遮断しながら内部への採光を行います。



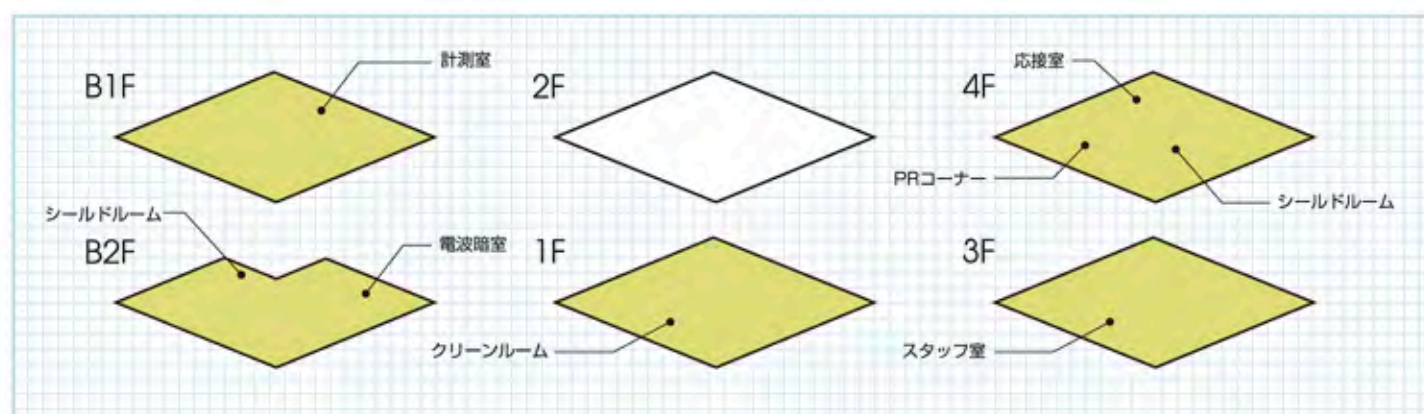
計測室／B1F



シールドルーム／B2F・4F

金属板など導電性の高い材料で遮蔽した実験施設を設置しています。外部から電磁波の侵入がなく、施設内で電磁波を安定的に照射することができます。

研究開発棟 B2-4F



PRコーナー

携帯電話やノートPCの搭載されている当社の電子部品をパネルや実物展示で紹介しています。

高効率熱源システム

最小限のエネルギー負荷で冷水を製造する空調システムを採用しています。

建設ゼロエミッション

建設工事に伴う埋立て廃棄物をゼロにする、建設工事ゼロエミッションを達成しました。これは、9品目[※]の分別を徹底することで、廃棄物の100%リサイクルが可能となったということです。なお、関西地区の建設工事では、先進的な取り組みとされています。

※9品目：
コンクリートガラ・木くず・廃プラ・プラスチック複合物・ホコリ類・金属くず・塩ビ管・電線類・ダンボール

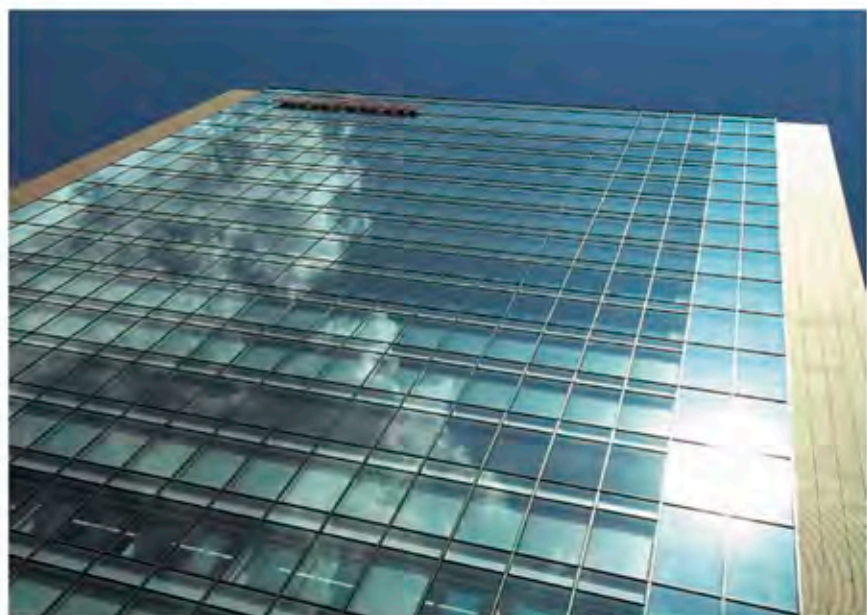
環境

最先端のエコロジービルを設計コンセプトとして、建物の建設から廃棄までのライフサイクル全体で省資源・省エネルギーを図るビルとしており、標準的なオフィスビルに対して、約30%のエネルギー削減施策が盛り込まれています。また、指定した一部を除き、禁煙を原則としています。



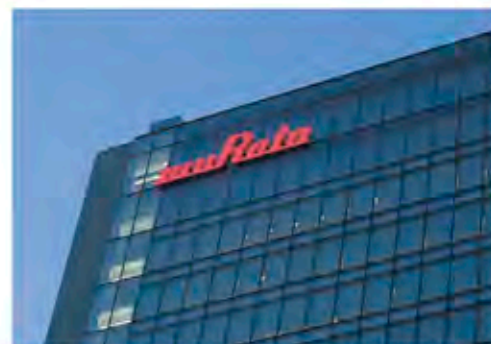
屋上緑化

屋上緑化の採用により、夏季の屋上表面温度の上昇を抑え、冷房負荷の低減を図っています。さらに、周辺への熱の照り返しを防ぎ、ヒートアイランド現象の緩和にも寄与しています。



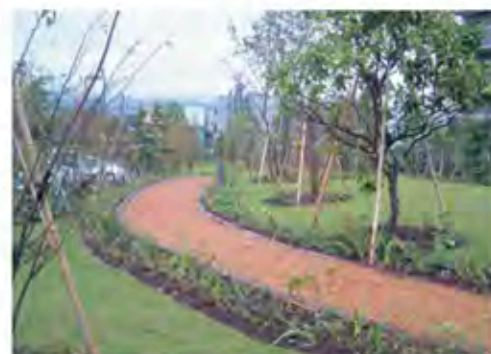
透明ガラスの採用

太陽光反射の照り返しを抑さえ、また、テレビ電波障害範囲を最小限に抑えるため、反射系のガラスを使用せず透明のガラスを採用しています。さらに、ブラインドも電波透過型としています。



外壁サイン

外壁サインの光源にLEDを採用し、従来のネオン管に比べ93%の省エネルギーを図っています。



敷地内緑化

敷地内を可能な限り緑化し、植栽からの蒸散効果による周辺気温の低減を図っています。駐車場の舗装にも緑化ブロックを採用し、緑地率30%(A棟敷地)を確保しています。



透水性舗装

歩道には透水性舗装を採用することで、雨水を地球に返す働きをしています。

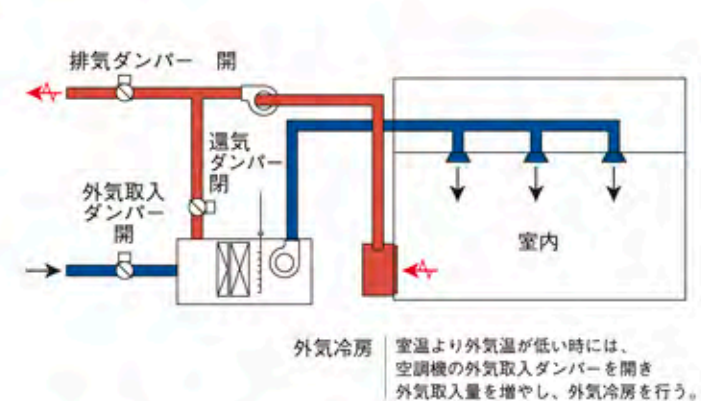


緊急遮断ゲート

発電機燃料である重油の万一の漏洩事故に備え、重油が敷地外へ漏洩しないよう緊急遮断ゲートを雨水側溝に設けています。

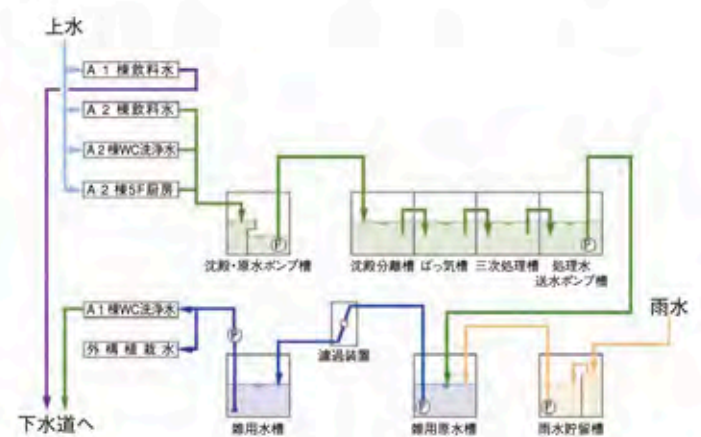
設備

省資源、低環境負荷を最優先に考え、水の使用量低減やエネルギー効率に優れた数々の設備を採用しています。先進のオフィスビルが、快適な生活環境を維持しながらも、地球にもやさしい施設となれることを、私たちが身をもって体现することが、当社の社会的役割のひとつと考えているからです。



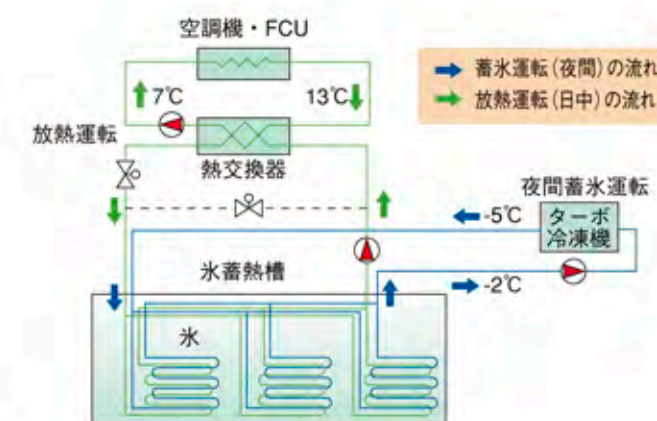
外気冷房システム

外気冷房システムの採用により、春季、秋季には積極的に外気の冷たい空気を室内に取り入れ、冷房エネルギーの削減を図っています。



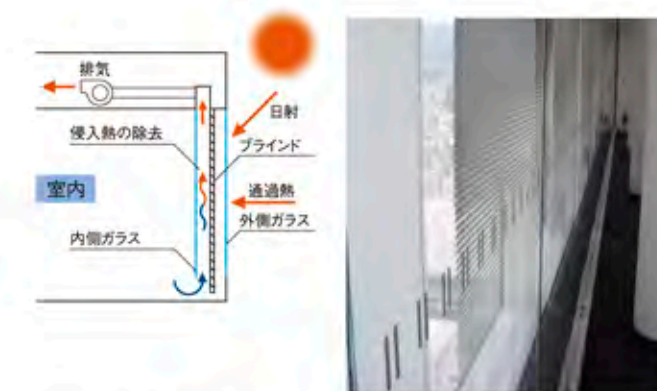
雨水污水再利用設備

雨水汚水再利用設備を設け、建物内から排出される雑排水および屋上雨水を集水、浄化し、トイレの洗浄水として再利用します。これにより上水の使用量を33%低減しています。



氷蓄熱システム

熱源に高効率ガス焚吸収式冷水発生機と氷蓄熱システムを組合せることにより、消費電力の低減を図っています。また、氷蓄熱の採用は、電力負荷の平準化にもつながります。



エアフローウィンドウ

眺望や開放感といった窓の持つ役割を大切にしながら、外気温の影響や窓際の暑さの問題を解消するエアフローウィンドウを採用しています。2層のガラスの間にブラインドを設けるとともに、室内の空気(室内全体空気量の約15%)を通過させることで、太陽光がブラインドに当たって発生した熱を全量排気しており、高い断熱性能を備えています。